

“DJ的”

アナログ盤デジタル化奮闘記



ハイレゾ音源のムーブメントのおかげで、D/Aコンバーターというマニアックな製品にスポットがあたったここ数年、その裏で密かに注目されているのがハイレゾ対応のA/Dコンバーター。その役割はアナログで入力した信号をデジタルに変換して、USBから出力、PCにハイレゾ音源を残すというもの。物理的なスペースの問題やレア盤の保存という理由のほかにも、DJ用途でハイクオリティなアーカイブに情熱を注ぐ向きもあるのです。(編集部)



A/D CONVERTER + PHONO AMPLIFIER
PS Audio
NuWave Phono Converter

¥213,000
●接続端子：デジタル音声出力2系統(同軸、USBタイプB)、アナログ音声入力1系統(RCA)、アナログ音声出力2系統(XLR、RCA)、フォノ入力1系統(MM/MC) ●寸法/質量：W210×H61×D360mm/6.4kg ●完実電気(株) ☎03(3261)2071

HiVi読者の皆様、クラブDJのアボカズヒロです。さて、昨今DJの間で熱いトピックスとして、所有している膨大なアナログ盤をいかにいい音でデジタル化するか……というのがございます。え？なんでデジタル化しなきゃいけないの？という方もいらっしゃると思いますが、それにはこんな理由が……。

1 デジタル化することによって、現場により大量の音源を持ち込める

旧来のDJはアナログ盤を大量に詰め込んだバッグを夜な夜なカートでガラガラと引つ張ってクラブに赴く日々で

デジタルアーカイブ作成のベストチョイス！ 全DJ必携のフォノ内蔵A/Dコンバーターとは

した。荷物の量は軽く数十キロ！それでも持ち込める曲数は多くて数百曲です。そこに革命をもたらしたのはDVSと呼ばれるPCDJシステム。これは、特殊な信号を記録したアナログ盤の音声を入力してPC内の音源を操作するというもの。つまり、操作性は従来のターンテーブルを用いるのと同様にプレイが可能で、音源はPC内に大量に入れておけるわけです。これで、荷物の重量は今までの5分の1以下！選曲の幅は数百倍!!

2 そのままレコードをかけてもいい音で鳴らせる保証のない時代

CDやPCでDJするのが主流になって以降、お店によってはターンテーブルのメンテがなさりになっていて、そのままアナログレコードをかけても気持ちよく鳴らない現場もあります。また、システム自体がデジタル音源向けにチューニングされている所も多いのです。そういう現場では、その場でアナログレコードをかけるよりも、それを

デジタル化してPCでプレイした方がむしろその盤のよさを引き出せる場合もあります。

このような理由で、アナログ盤のデジタル化の沼にハマって行く僕ですが、針やフォノEQなど、なにかにつけて選択肢が多いこの世界。ベストチョイスはなかなか見つかりません。そんな中、P.S.オーディオのNuWave Phono Converter(以下、NPC)をお借りできることになったので、これを使ってデジタル化作業を試みることにしました。

せっかくなのでプレーヤーもDJの定番テクニクスSL1200ではなく、オーディオショップ、ル・タブー(残念なことに1月31日を以て実店舗は閉店)でトレンスのTD295MKIIをお借りして、カートリッジはナガオカのMP150を使用しました。上を見ると色々な針がありますが、クラブで使う用途を考えると低域に迫力が必要。数あるオーディオ向けカートリッジの中でもMP150はハコでの鳴りがひじょうによく、愛用しているのです。

さらにNPCはDSD出力が可能。以前コルグのMR2000を使ってDSD録音したらひじょうに生々しく、本当に空気感まで、そのまま録れたので、今回もDSDで！と当初は意気込んでいたのですが、DSDって、まだDAWなどで簡単には編集出来ないのです。DJはレコードを取り込んだ後、より現場で使いやすいように展開などを再編集することがあります。その際はどうしてもPCMにしなくてはなりません。そういったわけで、今回は192kHz/24ビットで作業しましたが、DSDをそのまま編集したりDJでプレイ出来るようになったらもっと世界が広がるのになあという感否めません。今後PCが高性能になったらもっとハイレゾ音源

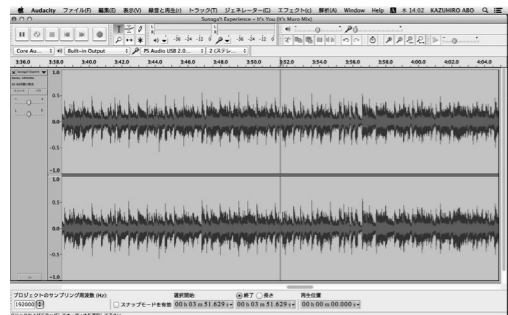


↑NPCはフォノイコライザーを内蔵することで、アナログレコードのPCへの取り込みを1台で可能にしている。対応のサンプリング周波数/量子化ビット数は~192kHz/24ビット(PCM)、~5.6MHz/1ビット(DSD)。写真のようにMacとUSBケーブルでつなぐだけでOK

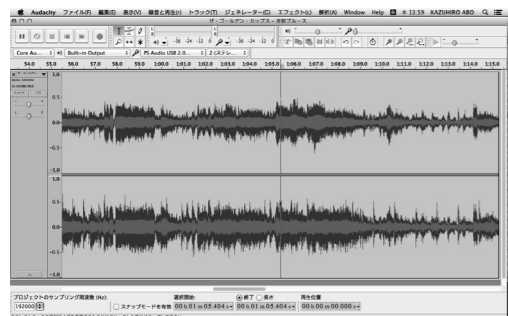


↑取り込み作業には秋葉原のル・タブーを借り。プレーヤーはトレンスのTD295MKIIだ。カートリッジはナガオカのMP-150

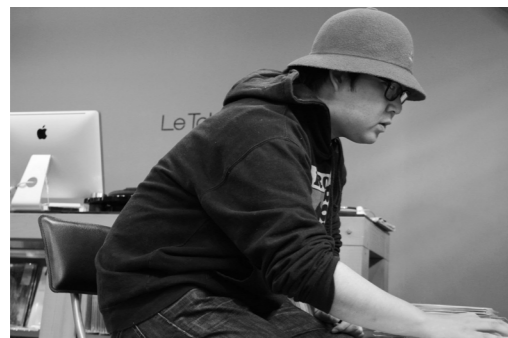
ていて今っぽい音。そして特筆すべきは中域高域の表現力。Sunaga't Experienceの「It's You (It's Muro Mix)」などは何千回も聴いた曲ですが、この曲はベルの音がかんنانに重要だったのか！と新しい発見の連続でした。NPCの音、とてもクラブ映えます。これ、全DJ必携かも!? 1



↑取り込みのソフトは相性があるようだが、基本的なものでOK。写真は定番のフリーソフトAudacity。筆者が何度現場でもプレイしたか分からないSunaga't Experienceの「It's You (It's Muro Mix)」も、NPCを使うことでDJ的にも新しい発見が!(アボ)



↑実はこんなレコードも録音してみました。バンド演奏ものをNPCで録ると、時代によるレコーディングやミックスの違いが如実に現れて面白い。ザ・ゴールデン・カップスのドーナツ盤は当時としてはかなり音像が立体的(アボ)



アボカズヒロ

クラブDJ/DJ講師。14歳でDJ/トラックメーカーとしての活動を開始してから現在に至まで、クラブはもとより、美術館や幼稚園を会場に老若男女を踊らせ続けている。昨年、DJのための私塾、桜木DJアカデミーを開校。ソーシャルテレビ企画「佐武宇綺DJ化プロジェクト」でも講師を務める

Twitter:
<https://twitter.com/abolabo>
桜木DJアカデミー:
<http://sda.djummy.net/>